

県政モニター(がん対策に関する)アンケート結果

平成22年4月 山梨県福祉保健部健康増進課

県民のがん対策に対する考え方を把握するため、県政モニターによるアンケート調査を実施した。

1. アンケート実施の目的

がん検診受診の状況や、がん診療連携拠点病院等に関する認知度等を把握し、今後のがん対策に生かす。

2. アンケート実施期間及び方法

平成22年3月1日～平成22年3月12日
郵送によるアンケート調査

3. アンケート対象者

県政モニター 501人

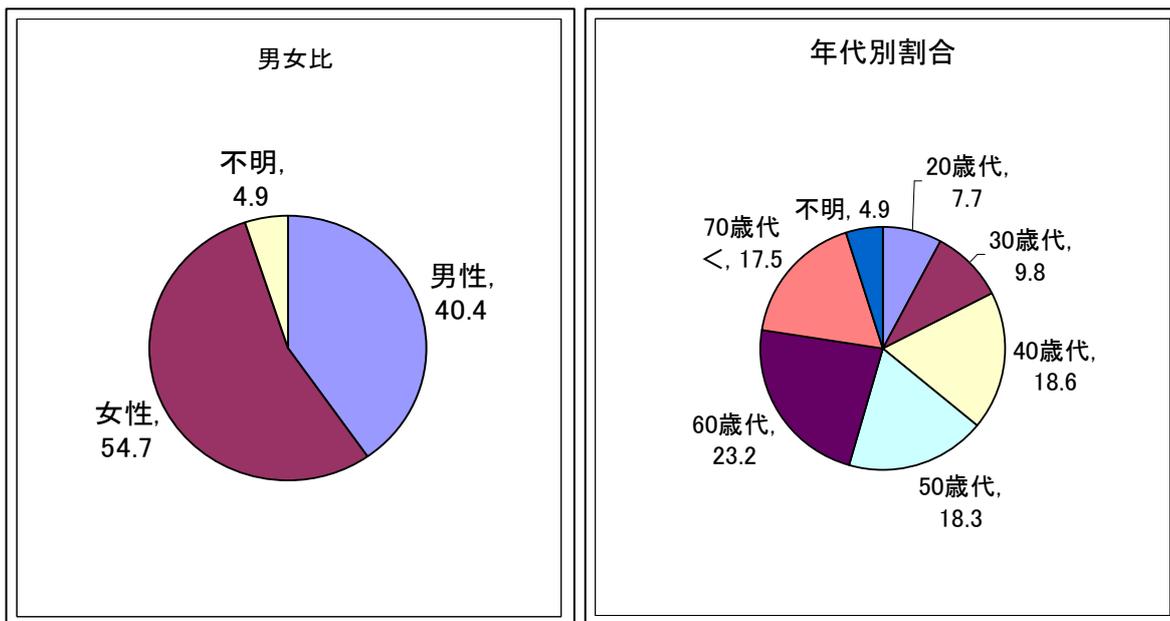
4. 回答数(率)

366人(73.1%)

5. 集計結果

(1)回答者の男女比は、男性40.4%、女性が54.7%で女性がやや多かった。

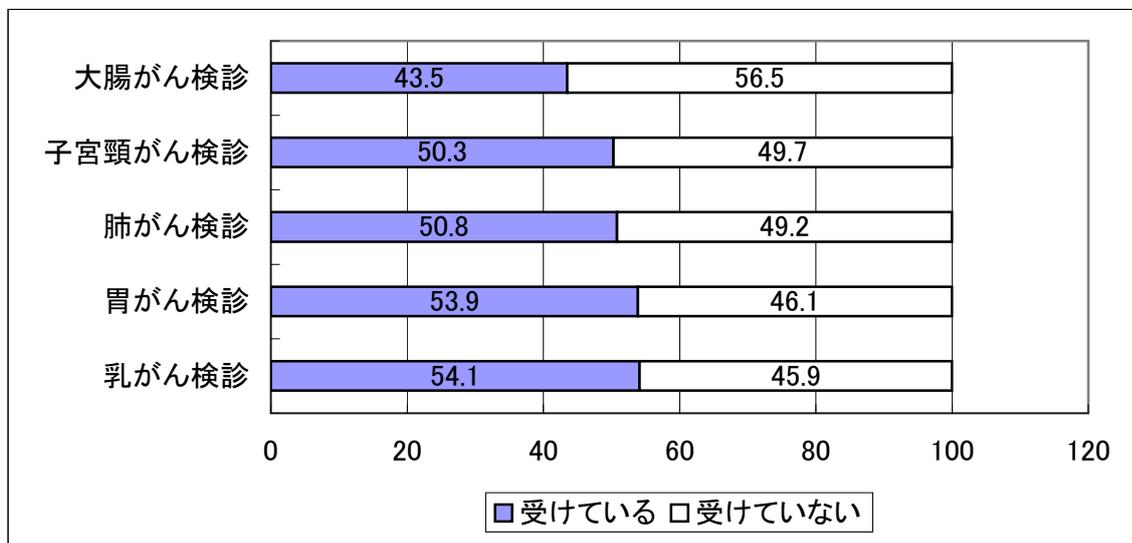
また、年代別では60歳代が23.2%と最も多く、ついで40歳代(18.6%)、50歳代(18.3%)の順であった。



(2)がん検診に関すること

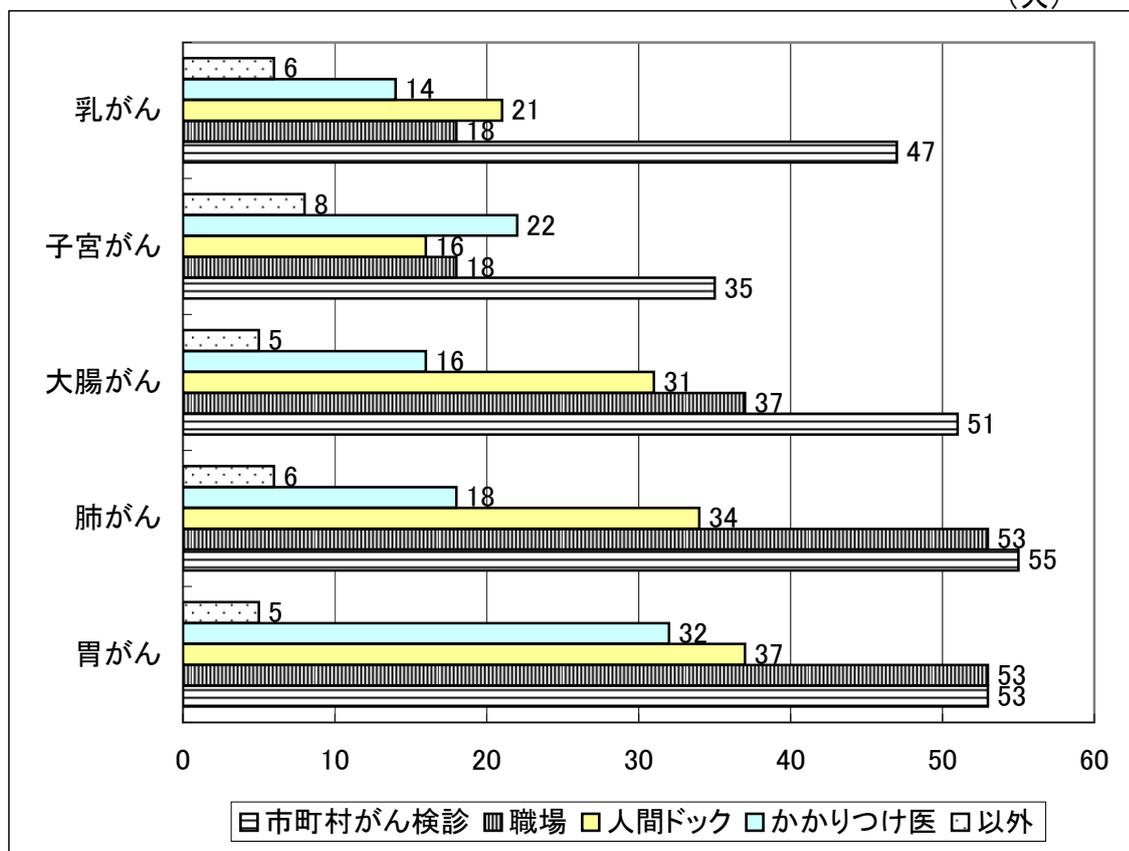
1)過去1年間に受けた「がん検診」の受診の有無(受診機会は問わず)について尋ねたところ、次のとおりであった。

「乳がん検診」が一番受診率が高く54.1%、ついで「胃がん検診」53.9%、「肺がん検診」50.8%の順であった。



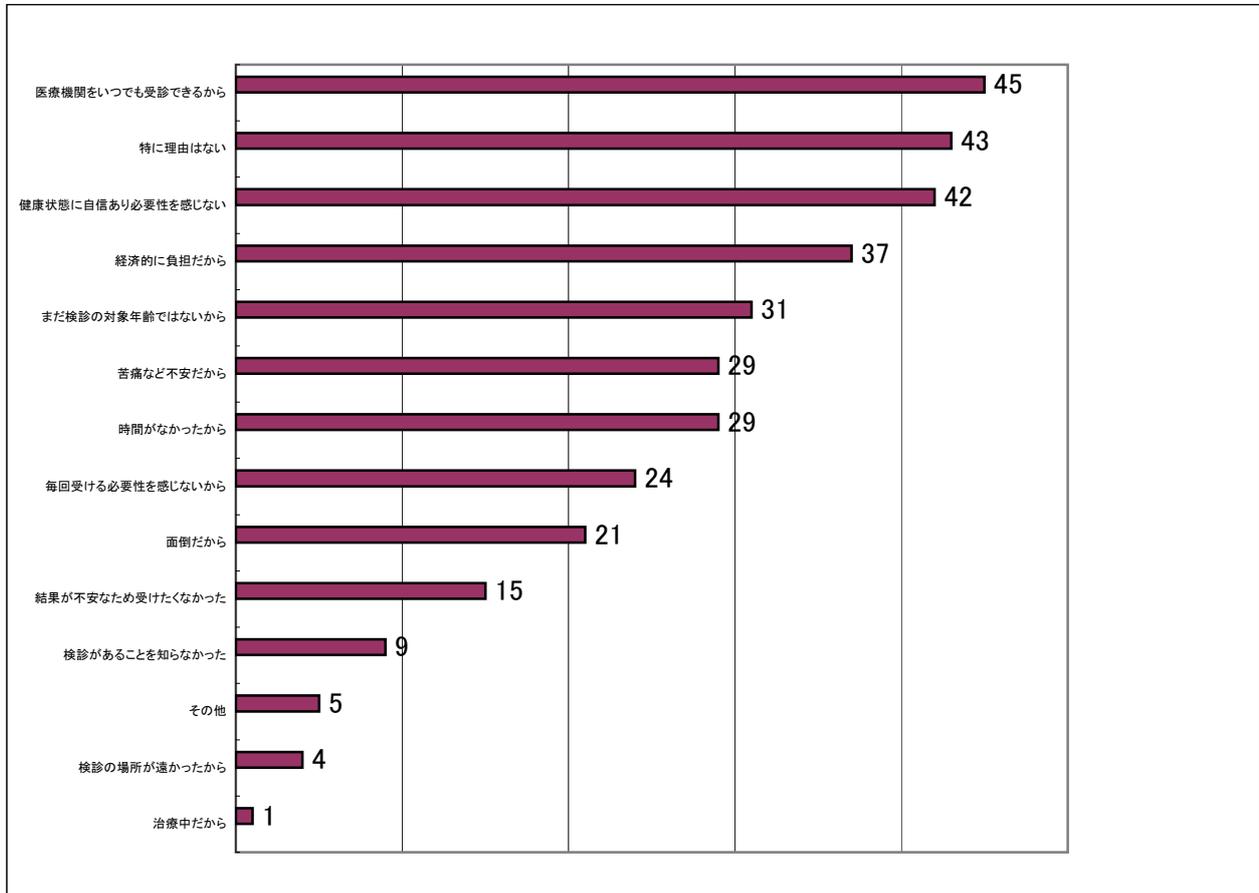
また、がん検診をどのような機会を受けているかについては、次のとおりであり、全ての検診で「市町村検診」が多かった。

(人)



2)「検診を受診しない理由」では、「医療機関をいつでも受診できるから」45人、「特に理由はない」43人、「健康状態に自信があり必要性を感じない」42人の順であった。早期発見のためのがん検診は、症状がない健康な時にこそ受診すべきものであるため、さらにがん検診の意義や必要性を啓発する必要性がある。

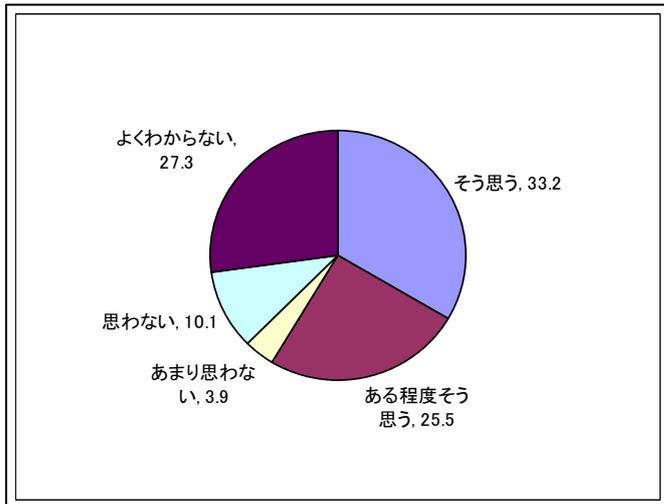
(複数回答：人)



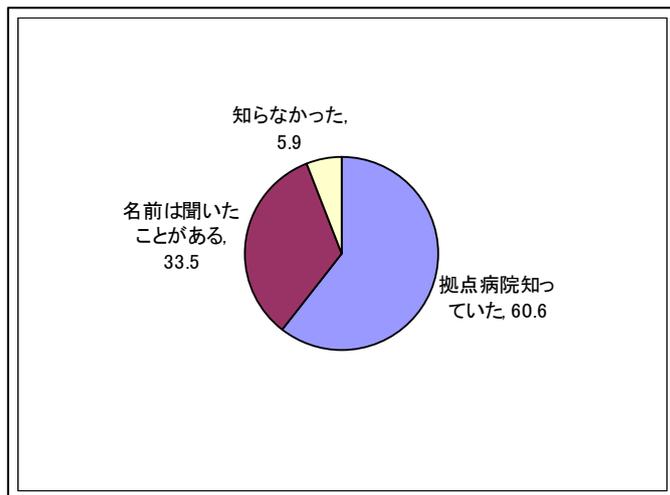
3)市町村と県における「がん検診」の普及啓発活動について、周知されているかについて尋ねたところ、次の結果が得られた。市町村広報では「周知広報されている」と「ある程度周知、広報されている」を合わせると、83.8%が周知・広報をされていると答えており、一方県については同様の割合が56.6%であった。

区分	市町村	県
広報等の内容	受診案内 検診の啓発	受診率向上 の啓発活動
周知広報されている	158(45.2%)	71(20.1%)
ある程度周知・広報されている	135(38.6%)	129(36.5%)
あまり周知・広報されていない	34(9.7%)	99(28.1%)
周知広報されていない	5(1.4%)	15(4.2%)
よくわからない	18(5.1%)	39(11.1%)
合計	350(100%)	353(100%)

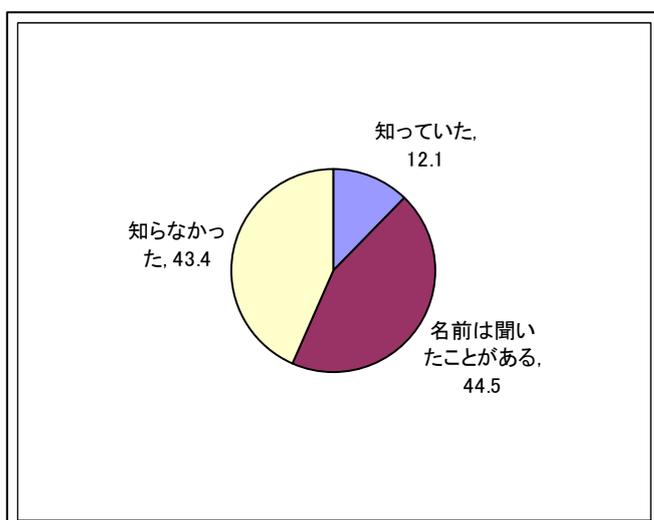
4)市町村や職場の検診が「受診しやすい体制(会場、医療機関、時間帯)になっていると思うか」については、「そう思う(33.2%)」と「ある程度そう思う(25.5%)」を加えると58.7%が受診しやすい体制であると答えた。



5)「がん診療連携拠点病院を知っているか」については、「知っていた」が60.6%、「名前を聞いたことがある」が33.5%、「知らなかった」が5.9%であった。



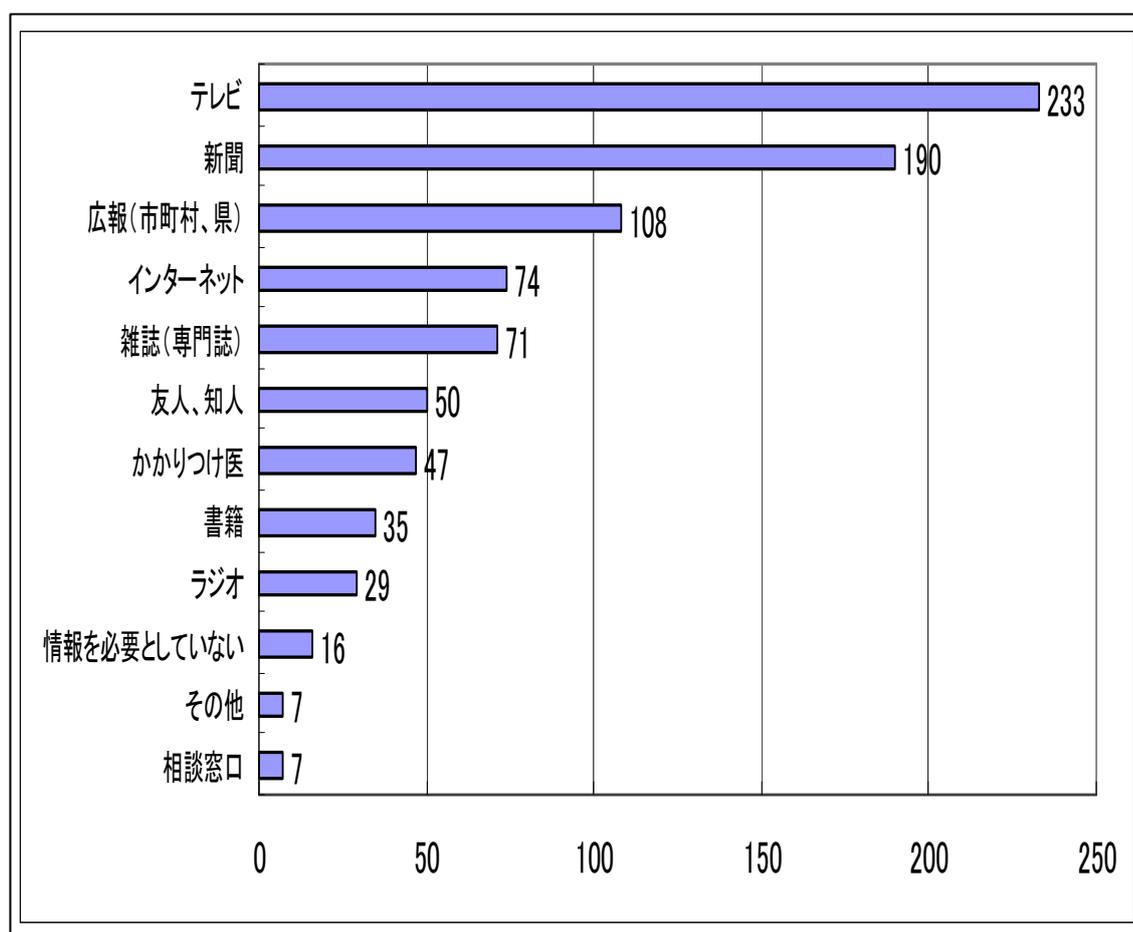
6)「がん相談支援センターを知っているか」については、「知っていた」12.1%、「名前だけは聞いたことがある」が44.5%で、「知らなかった」が43.3%であった。



7)がん相談支援センター業務で「充実してほしい業務は何か」と尋ねたところ、「医療情報の提供」がもっとも多く239人、「医療機関の紹介」190人、「セカンドオピニオンの提供」180人の順であった。(複数回答:人)

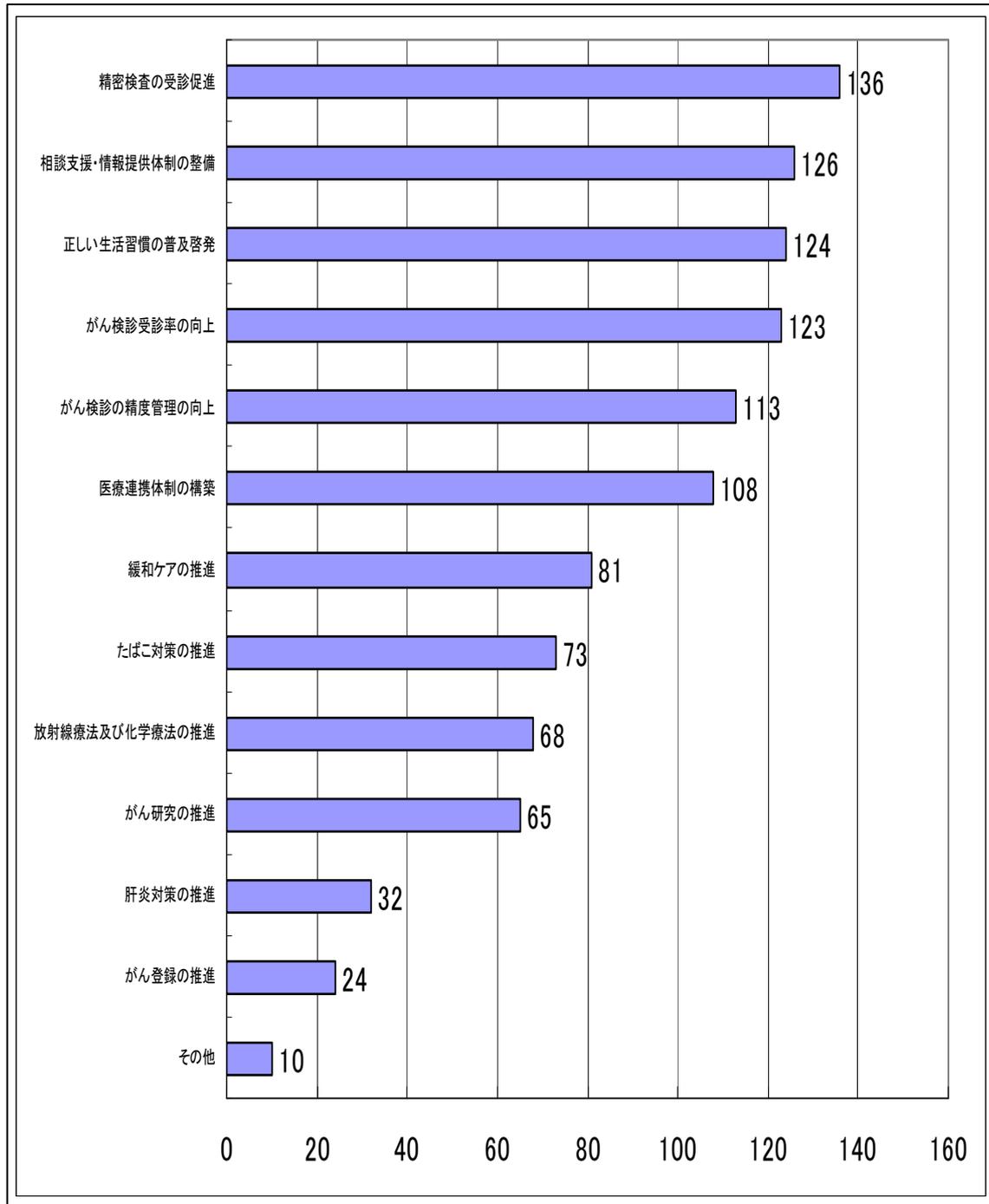
医療情報の提供	239
医療機関の紹介	190
セカンドオピニオンの提供	180
療養上の相談	136
その他	2

8)「がん情報」をどのような手段で入手するかについては、「テレビ」233人、「新聞」190人、「市町村・県の広報」108人の順であった。(複数回答:人)



9) がん対策に関する県への要望については、「精密検査の受診促進」136人、「相談支援、情報提供体制の整備」126人、「正しい生活習慣の普及啓発」124人、「がん検診の受診率向上」123人の順であった。

(複数回答:人)



10)その他、がん対策への意見(自由記載)は次のとおりであった。

項目	内 容
検診	20歳代のがん検診の広報、子宮頸ガンの学習を10代から
	がんに関する健康講座の開催、子宮頸がん検診の周知の必要性
	若い世代も受診しやすい体制の整備、自己負担の軽減を希望
	検診がもっと手軽にできるとよい
	がん検診の対象年齢をもっと若くしてほしい
	具体的に情報を発信しないと受診率はのびない。経済面、子供のいる母親はうまく時間がとれない
	早期発見のために、年2回検診してはどうか
	土日、祝日でも検査が受けられるようにしてほしい(3件)
	家庭の主婦にも検診のPRが必要
	受診日の増加
	安心して受診できる検査機関の紹介
	苦痛を伴わない検査方法の開発(国へ要望したい)2件
ワクチン	検診の自己負担が少し減ればよい、無料化も検討してほしい等(3件)
	早期発見、早期治療が重要(4件)
ワクチン	予防できる子宮頸がんワクチンを公費負担にしてほしい(7件)
医療整備	郡内にはがん専門の設備の整った医療機関がほしい。通院が大変
	心のケアと高度な治療ができる医療機関があればよい
	地域格差の是正
	放射線療法及び化学療法の充実
	セカンドオピニオンの充実。県外医療機関との連携
	医療体制の整備(3件)
たばこ	居酒屋で分煙されていないことが多い。もっとたばこ対策をしてほしい
	がん予防のために正しい生活習慣とたばこ対策の推進がもっと必要(放射線、手術も必要であるが)
その他	山梨県のがん対策をもっと知りたい
	ジェネリックの普及促進が必要
	自然療法や自然医学の対策
	がん治療の遅れを感じているので、県は予防活動に主体をおくとよい
	がん患者の経済的負担を軽減してほしい
	マスメディアの啓発では、NHKしか映らない所があることを考えてほしい
	ホスピス協会やペインクリニックへの県からの補助を